

(様式5) 8 学校アクションプラン

令和3年度 大門高等学校アクションプラン -1-	
重点項目	学習活動
重点課題	学習習慣の定着
現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学当初は大多数の生徒が学習に意欲的であるが、学習についていけない生徒や家庭学習時間を確保できない生徒が徐々に増加する傾向にある。各教科で高校での学習方法を最初に学ばせたりしているものの、学習意欲が持続しない生徒が少なくない。</li> <li>・課題を課したり面談を行ったりして家庭学習の習慣化を促しているが、課題を提出することだけを目的とする生徒もおり、会得した内容に興味を持って深めたり自発的な学習に繋げたりといった生徒はまだまだ少ない。</li> </ul>
達成目標	① 1週間の家庭学習時間の合計が14時間以上の生徒の割合
	1学年 75%以上
達成目標	② 年度当初より学習の理解が深まったと実感する生徒の割合
	70%以上
方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活状況の把握や面談を中心とした個人指導を確立する。</li> <li>・毎日の生活状況を振り返らせ、学習習慣が身につけていない生徒に対して、授業やHRおよび個人面談等を通して学習状況を改善するようきめ細かな指導を行う。</li> <li>・教科間で課題の分量や提出期限を調整し、計画的に家庭学習に取り組みせる。</li> </ul>
達成度	4月～12月 57% (R02 83%) うち調査期間 73% (R02 96%)
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育用クラウドサービス「Classi」に生徒が毎日入力している学習時間を元に、面接等を通して学習習慣や学習状況を確認した。</li> <li>・学年や教科では、全生徒対象の朝学習を実施するとともに、課題未提出者や学業不振者に対する補講を放課後や長期休業中に実施するなど、基礎学力の向上を図った。</li> </ul>
評価	① C ② B ①は集計期間に違いがあるものの、昨年度より低くなっている。 ②は昨年度より低下した。夏期休業明けの約1か月間、分散登校・オンラインを活用した授業となったことが原因の一つと考えられる。
学校関係者の意見	生徒1人1台タブレットの端末が割り当てられて学校現場では、緊急時に対応した環境が作られていると察する。これからは、タブレットを最大限に利用して、個人のきめ細やかな指導をすることで生徒の意欲を引き出して欲しい。
次年度へ向けての課題	昨年度より、教育用クラウドサービス「Classi」を利用して学習記録やアンケート調査のデータを収集している。 ①については1週間分入力されたデータのみを使用している。1週間分入力している生徒は昨年度よりは若干多くなったが、1学期は全体の8割程度で2学期は6割未満に留まった。全体の傾向を把握するため、データ入力率を上げる工夫が必要である。 ②については、8月から在校生に一人一台タブレット端末を割り当てることができ、2学期最初の休校・分散登校期間のオンラインを活用した授業等に利用することができた。今後は普通の授業の中で適切に使用し、生徒の学習意欲や理解度の向上につなげるようにしていきたい。

評価基準 A: 達成した B: ほぼ達成した C: 現状維持 D: 現状より悪くなった

重点項目	学校生活	
重点課題	生活指導の充実と交通ルール・マナーの遵守	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>健全な学校生活を送る上での、基本的な生活習慣が確立していない生徒が見受けられる。</li> <li>積極性や主体性にやや欠ける面が見られ、自ら進んで行動できる生徒が少ない。</li> <li>登下校の際に自転車を利用している生徒の交通事故（対自転車、対自動車）が多い。</li> </ul>	
達成目標	① 学校行事や生徒会活動などに積極的に参加したと考える生徒の割合	② 交通事故（対自動車・自転車）の発生件数
	70%以上	0に近づける
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>全校大門タイムの生徒の主体的な運営と実践および参加を通して、学校生活や諸活動に対する生徒の意欲や取り組む姿勢の向上を図る。</li> <li>基本的な生活習慣（服装・頭髪・時間の遵守・挨拶）の確立が、望ましい学校生活につながることを意識付けする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通安全教室の開催や毎月の交通安全街頭指導により交通ルールの遵守を徹底させる。</li> <li>生徒会やサイクル安全リーダーが中心となり、自転車施錠の徹底や交通安全を呼びかける。</li> </ul>
達成度	学校生活（満足度） 65.5% (69.8%) 学校行事・生徒会活動 48.6% (49.9%)	自動車との接触事故 6件 自転車同士の接触事故 1件 (R02 対自動車3件、自転車同士0件)
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会執行部と各委員会の活動や行事の実施について工夫をするように指導した。その結果、全校大門タイムは校内放送で実施した。体育大会は、競技の縮小や見直しをして実施した。球技大会は昨年度同様競技ごとに運営・実施した。学園祭は実施できなかった。</li> <li>夏のさわやか運動や秋の遅刻・服装指導は、事前に全校大門タイムを利用して校風委員から実施についての呼びかけを行い、自律的な生活に向けての意識づけを図った。</li> <li>交通事故の起こりやすい状況や、事故が起こった時の対応を、機会を見て話をして確認した。校風委員会が自転車の施錠状況を調べ、施錠していない生徒に指導をして防犯意識の向上を図った。</li> <li>生徒対象にアンケートを実施し、学校行事や生徒会活動、部活動に対する満足度や活動状況を確認した。</li> </ul>	
評 価	① B  ② B	① 学校生活の満足度、学校行事・生徒会活動への積極的参加ともに昨年度と大きな変化はなかった。できることを積極的に行った生徒がいる一方で、行事等が本来の形で実施できずに満足感を得られない生徒がいたと考えられる。 ② 交通事故発生件数は、昨年度より増加したが、一昨年度の対自動車9件であり、例年と変わりなかった。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍で思った取り組みが出来ない中、70%近い満足度は素晴らしい。来年度もコロナが収まるかはわからないなかで、発想の転換も必要である。「何ができるか」視点を広げて活用方法を工夫し挑戦して欲しい。</li> <li>交通安全など基本的な生活習慣については今後も指導を続けて欲しい。</li> </ul>	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会執行部や委員会ができることを考え実行した経験を引き続き生かし、主体的に行動できる生徒の育成に努める。</li> <li>交通事故の具体的な発生状況を周知するとともに、関係機関とも連携し、自転車の安全な走行ルールと事故防止の徹底に努める。</li> </ul>	

重点項目	進路支援	
重点課題	進路意識の向上と進路目標の確立及び実現	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来についての具体的な目標を明確に持てない生徒がいる。</li> <li>・自身の適性を考えたり、興味ある進路先について調べたりして進路目標の実現のための積極的な努力を行う生徒が少ない。</li> </ul>	
達成目標	① 3年次 進路志望の実現達成 進路決定者の割合 80%以上	② 1、2年次 進路目標の明確化 (1年次：学びたい分野決定、2年次：志望校の決定) 1年次 80%以上 2年次 70%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習習慣と学力の状況を把握し、個人面接などを利用して学習意欲を促すとともに十分な情報と適切なアドバイスのもと進学先の入念な検討を行う。</li> <li>・校内模試、外部模試を活用して振り返りを促し、着実に実力を向上させ、進路目標の実現を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進学ガイダンス・進路講演会・進路研修旅行等を活用し、進路意識の向上を図る。</li> <li>・本校卒業生や保護者の方から直接話を聞く機会を設け、大学での学びや社会人としての生き方を実感させる。</li> <li>・自己の適性を意識させ主体的な進路研究を図るために、キャリアパスポートを作成させる。</li> </ul>
達成度	国公立大学前期試験合格発表後進路志望実現達成度 58%(46 / 80人)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年志望分野決定率 60%(71 / 119人)</li> <li>・2年志望校決定率 44% (51 / 117人)</li> </ul>
具体的な取り組み状況	<p>①推薦入試と国公立大学前期試験(第1志望校)の合格者は46人/80人(58%)である。一般入試出願では、推薦入試不合格者を含め、生徒自身が納得のいく出願となるように出願校の入念な検討と第1志望校合格実現にむけて教職員が一丸となって個別指導に取り組んだ。</p> <p>②対面でのオープンキャンパスや体験学習、進路研修旅行は相継いで中止となったが、webオープンキャンパスや進路講演会を実施し、さらに2学年の進路研修週間を設けるなど主体的に進路志望を明確化する機会を作り、進路意識の向上を図った。</p>	
評 価	① A ② B	<p>① 全員が納得のいく進路決定となるように、引き続いて取り組んでいく。</p> <p>② 1、2学年とも目標値を達成できなかった。</p>
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナウイルス感染の影響で研修旅行が中止となったが、それでも工夫をして近県での実施をされたことは良かった。自分の将来像、なりたい姿が描けないことは、学習意欲の向上にも影響する。情報環境を生かし、自分のスキルを磨く良い機会として捉えて欲しい。</li> <li>・志望校を決定することは大変なことだが、生徒一人一人の思いに寄り添い夢を実現させて欲しい。</li> </ul>	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2025年度「情報」科目が大学共通テストに新設されるなど、新学習指導要領を踏まえた入試問題研究に早期に取り組み、授業内容に活かしていくことが重要である。</li> <li>・主体的な学習活動や進路研究を通して、振り返りや自己評価、キャリアパスポートの作成を行い、「グラデュエーション・ポリシー」の育成、伸長をめざす。</li> </ul>	

評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

重点項目	特別活動	
重点課題	地域との連携推進と部活動の充実	
現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域とのかかわりあい大切さを徐々に理解し、ボランティア活動に積極的に参加するようになってきている。</li> <li>・体育大会で近隣の保育園児を招待したり、老人ホームを訪問したりして交流を深めている。</li> <li>・部活動の施設・設備は整っているが、活動状況は停滞している。</li> </ul>	
達成目標	① 地域での活動（行事等）への参加	② 部活動に対する積極性、主体性
	参加生徒の割合60%以上	積極的、主体的に活動していると答える者の割合 80%以上
方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣地域での清掃活動等、地域と連携した活動を企画する。</li> <li>・地域の清掃ボランティアや大門駅・学校駐輪場での自転車整理及びカギ掛けチェックを実施する。</li> <li>・近隣の老人ホームを訪問して交流を深める。</li> <li>・事前の研修で対象となる年齢の子どもにふさわしい絵本や読み聞かせたい絵本についての研究を深めた上で「読み聞かせ」ボランティアを行う。</li> <li>・各学年、クラス等でボランティア活動を計画し実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動の活性化をめざし、内容の充実とリーダーの養成を図る。</li> <li>・学習活動との両立を図るために休養日を設定し効率的な活動となるよう工夫させる。</li> <li>・アンケートや聞き取り調査を実施し、生徒の部活動に対する意識を知る。</li> </ul>
達成度	参加生徒の割合 46.9% (R02 48.5%)	加入率 95.2% (R02 94.3%) 満足度 77.4% (R02 82.9%)
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会執行部と地域ボランティア委員会で清掃活動を企画し有志も募って実施した。その他の予定していた活動は実施できなかった。</li> <li>・保健厚生部と連携し部活動の活動場所及び部室の清掃活動を実施した。(年2回)</li> <li>・各クラスのホームルームの時間にボランティア活動の企画・参加を呼びかけて実施した。(年1回)</li> <li>・アンケートを実施し、生徒の部活動やボランティア活動に対する意識や活動実態を調査した。</li> </ul>	
評価	① C ② B	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 校内、校外の様々なボランティア活動が中止となり、参加生徒の割合が減った。</li> <li>② 全体としての目標は達成できなかったが、3年生にとっての最後の大会が実施されたことにより、3年生の満足度は、目標を達成できた。</li> </ul>
学校関係者の意見	今年度もコロナウイルスの影響で制約が多く、行事等ができないなかで、「できること」を模索し工夫してやっていることは評価できる。最近では、学校と地域との連携が重視されてきている。形態として、地域の抱える問題に対して学校が課題を解決する(課題解決型)学習に取り組んで欲しい。	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会執行部と委員会で企画した活動に、自主的な参加者を増やすため、実施時期や事前の広報活動を検討する。</li> <li>・各クラスで実施したボランティア活動では、ボランティア活動として捉えていない生徒がいたので活動内容の検討と生徒の意識づけが必要である。</li> <li>・自ら考えて行動できる生徒が出てきている。このような生徒を増やすために、様々な活動の際に生徒会執行部との連携を密にし、今まで以上に生徒主体の活動ができるようにする。</li> </ul>	

評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

重点項目	その他（情報教育）	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報発信能力の育成</li> <li>・教員のICT活用能力の向上</li> </ul>	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1・2年生の「総合的な探究の時間」などで情報を収集し調査結果をまとめる学習活動を行っているが、検索結果の羅列に終わっている場合が少なくない。</li> <li>・大多数の教職員が授業等でICT機器を使用しているが、教職員が教材提示等に用いる場合が多く、生徒が使用する場面は少ない。</li> </ul>	
達成目標	① 生徒が探究活動や情報発信に取り組む機会を増やし、情報活用スキルを向上させる。	② 教職員によるタブレットPC等のICT機器の効果的な活用を促進する。
	1・2年生全員が授業や「総合的な探究の時間」で学んだ内容2つ以上について、それぞれ適切な方法で情報発信する。	生徒が「1人1台タブレットPC」を使用する授業を、全ての教員が1回以上実施する。
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報発信の機会を複数回設けることで経験を積み、スキル向上を図る。</li> <li>・目的に合わせて情報の形態を工夫することを体験させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の要望を踏まえてICT機器が使いやすい環境を整える。</li> <li>・講習会等を通して教材や授業実践例を紹介するなど、タブレットPCの活用を促進する。</li> </ul>
達成度	1年生 情報発信2回 2年生 情報発信2回	生徒が「1人1台タブレットPC」を使用する授業を実施した教職員 92%
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生は、進路探究レポートの作成とテーマ別学習の班別発表、2年生はテーマ別学習のレポート作成とプレゼンテーションを実施した。</li> <li>・教職員を対象に、オンライン授業実施の為の研修と教育用クラウドシステムの効果的な使用法の研修を実施した。また、それぞれの教科で、生徒が「1人1台タブレットPC」を使用する授業を参観する機会を設けた。</li> </ul>	
評 価	① A ② A	①について、両学年とも2回（2方法）での情報発信を行った。 ②について、年度途中に端末が導入されたことから、休校・分散登校期間にオンラインを活用した授業を実施した教職員を含めている。
学校関係者の意見	<p>学校からの情報発信は、頻繁になされていて良い。また、生徒へのタブレット配付もあり、ICTを活用した教育は現状に即した取り組みがなされている。クラウドを十分に活用して他校のモデルとなるようになって欲しい。</p> <p>授業でのICT活用方法について、校内で共有して効果的な利用法について研究をして欲しい。</p>	
次年度へ向けての課題	<p>①については、両学年とも複数回の情報発信を行っているが、内容や形態には工夫の余地があると考えられる。</p> <p>②に関連して、8月から在校生に「1人1台タブレットPC」を割り当てることができ、2学期最初の休校・分散登校期間に活用することができた。現状ではACアダプタが一組しかなく、生徒が頻繁に学校と自宅の間で持ち歩くのには不便がある。県とも連絡を取りながら、利用環境の充実を図っていききたい。また、GIGAスクールサポーター等も活用しながら、教職員のICT機器活用の促進につながる研修を来年度も企画したい。</p>	

評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった